

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900651		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート前原東 (1階)		
所在地	千葉県船橋市前原東5-42-35		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一笑をモットーに、職員とお客様において良好な関係が築かれています。日常生活では趣味や家事の手伝いとご本人様が出来ることを発揮できるように支援するほか、希望に応じて外出や外食会の実施など様々な企画を設けて日々楽しく生活できるように支援しています。施設のような雰囲気ではなく、家庭の雰囲気を大切にした住環境を心掛けています。ご家族様との絆の橋渡しであることを心掛けています。(連絡を密に取り月1回ガーデンコート通信の送付、ブログの更新など)自治会・近隣学校主催の行事にも参加させていただき地域の方との交流も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホーム内で居心地よく、楽しく生活が送れるように毎月行事を実施しており、利用者の楽しみが拡充できるように取り組んでいます。今年度も近隣のファミリーレストランへ外食に出かけたり、ホーム内で流しそうめんを楽しむなど、食事を楽しむ取り組みも定期的に取り入れています。ボランティアの方も積極的に受け入れており、行事で三味線や韓国舞踊、ウクレレのボランティアを受け入れたり、日常的にも傾聴のほか囲碁や将棋のボランティアを受け入れています。毎月行事を実施していることで利用者の楽しみも増え、利用者、職員共に笑顔が多く、明るい雰囲気の中で利用者は生活を送ることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是、心得、経営理念を念頭におきお客様が家庭的な雰囲気を持てるような環境作りを心がけています。	会社の社是、経営理念、心得をホーム内に掲示しており、職員全体で共有できるように取り組んでいます。また、企業の社員であることを念頭に、倫理観やプロ意識を持って仕事をしていく大切さについても管理者から職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、地域での買い物、散歩を通じて地域社会との繋がりを大切にしています	地域や神社で開催されるお祭りへの参加や散歩の途中で近隣の方とあいさつを交わしたり、囲碁や将棋、傾聴ボランティアの受け入れなどを通じて地域の方と交流できるように努めています。近隣とも良好な関係を築き運営を進めています。	近隣の小学校との具体的な交流についても検討しており、今後小学校との交流を通じて、子ども達と交流できる機会が増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩、運営推進会議などを通じて事業所を認知していただいています。地域の方やご家族の方から相談を受けることが増えました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の生活を確認していただいたり、毎月開催行事をブログと併せて報告しサービスの向上に活かしております。また町会長より地域行事の報告、予定の確認を取る時間も頂けるようになりました。	会議には地域包括支援センター、在宅介護支援センター、薬局や訪問歯科、家族代表者等の参加を受け2ヶ月に一度定期的の実施しています。会議では、ホームの取り組みや運営状況の報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや在宅介護支援センターとの密な関係を継続しており紹介や相談を頂いています。	運営上相談が必要なケースにおいては、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。事業所側からの質問には丁寧に回答を受けることができます。また地域包括支援センターや在宅介護支援センターからの協力も得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての会議を行いスタッフの理解を深めています。転倒・転落の危険がある場合でもどのようにして身体拘束をしない対応をするか負ニット会議等で意見交換をしケアプランに盛り込んでいます。	身体拘束をしないケアの実践に向け、高齢者虐待防止や身体拘束廃止研修を通じて職員の理解が深まるように取り組んでいます。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の身体拘束・虐待防止研修に参加したり、その際の資料を基に拠点内会議を行い、拘束・虐待事項の確認、理解を深めるようにしています。お客様の言動・行動にスタッフが対応できるように指導しています。		

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	拠点内会議にて権利擁護について研修を行いスタッフの理解を深めています。また成年後見人制度を利用しているお客様がおり、学ぶ機会も多く他の家族に提案したこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書及び重要事項説明書を管理者により、説明を行っています。ご家族にはご理解とご納得いただけるまで時間をかけて説明させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見や要望を担当者会議の際、面会時に直接伺い聞き取るようにしています。ご意見、ご要望があった場合はその都度話し合い、意見の反映に努めています。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しているほか、毎年の外部評価を通じて家族アンケートを実施し意見や要望等を表出できる機会を設けています。利用者からの意向は日常会話から収集し、日々の支援に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度個人面談を行い、スタッフの意見を聞く機会としています。また拠点会議やユニット鍵を月1回行っており、業務導線の見直しなど行っています。	管理者は職員と3ヶ月に一度面談する機会を設け、職員からの意向や要望などを定期的に確認しています。支援や業務に対する意見、要望、提案等については拠点会議やユニット会議時に確認し、日々の支援に活かしていけるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように個人面談等で確認を取り整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に職員のスキルアップ研修があり計画に沿って実施しています。また外部のスキルアップ研修の広告がある際は参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市町村が行っている認知症サポーター研修の参加、グループホーム連絡会などでネットワーク作りや連携を図り交流を持ちサービス向上に努めています。		

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、入居後はコミュニケーションに力を入れて人間関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時の書面や問合せ、サービス担当者会議で入居までの過程で時間をかけてご相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の方が最も望んでいる生活が出来るように情報提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気を目指し安心と安全な生活を送っていただけるホームを目指し過度なケアを避け出来る事をやって頂けるよう明るい雰囲気作りを目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆の橋渡し役を担う意識のもとでご家族様との連携を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙はもちろん、誰でも来訪できるようにしている為、友人の方々等気軽に来訪されています。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の面会の受け入れや以前通っていた美容院を継続して利用できるように取り組むなど、これまでの関係性が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	複数人数で散歩に行ったり、洗濯物や掃除を雑談を交え一緒に行って日常生活の作業を共同で行っております。		

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部の施設に移った方でも、法人内他の施設に入居したかたも来訪時にご様子の報告を受けています。担当者不在時でもいつでもご相談して下さいと連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングをして本人の意向を第一に介護計画を作成しています。訴えの少ないお客様にも時間をかけて希望を考慮しながら生活のイメージしています。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時にアセスメントし書面に残し職員各位が共有できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り、ユニット会議で全員が把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原案の作成をして、ユニット会議でスタッフと考察、ご家族来訪時の際や電話にて近況報告をし、場合によっては主治医を交えたカンファレンスを行っています。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や業務日誌に記録として残し日々の申し送り等で情報の共有化を図り、プランに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化があった際はその都度ご家族と連絡を取り、職員を交えたケース検討会議を行い日々のケアに反映させています。また申し送り等で全スタッフが情報共有できるようにしています。		

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	船橋市に登録しているボランティアを手配し、ウクレレや伝承遊びを行っています。また町内会の行事に参加できるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診が基本ですが小さな体調不良に電話で相談、臨時往診が受けれるようにしています。	提携先の医療機関とは月2回の往診を通じて連携し、利用者が必要な医療を受けられる体制を築いています。提携先医療機関とは常時連絡が取れる体制を築いています。また訪問歯科も受け入れ可能な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師により食事の事やお客様の対応方法等を相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際は入院先の病院と連絡を取り介護サマリー、個人記録を用いて日常の様子を申し送っている。また、入院が長引いた際は定期的に病棟看護師等から状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または終末期になりうる状況の際はご家族、主治医と密に連携を図り、援助計画を元に情報を共有している。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいている。マニュアルは事務所やフロアに設置されており、すぐに閲覧可能となっている。なお、緊急連絡網も添付しておりマニュアルに沿った対応が出来るように会議等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し消防署員から防災説明、消火器の取り扱い方、避難経路の確認、災害時の動きなどの確認を行っている。	平成29年7月と平成30年3月に夜間及び日中を想定した避難訓練を行っています。3月の訓練では消防署の立会いを受け実施しています。また、「風水害、震災、災害対応マニュアル」を整備し災害時の対応を明確にしています。	今後に向けては災害が発生した際に利用者の安否をどのような手段を用いて家族に報告していくかについて等もより明確になると良いと考えます。

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過度な敬語は使わず、声かけはゆったり優しい口調で明るく話しかけるように心がけている。	「モラル・コンプライアンス」の研修を法人全体で実施し、利用者への言動や行動等の振り返りにつなげています。またトイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し不適切な対応にならないように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様を尊重し、選択してもらうということを基本的なアプローチとして意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが入職した時のオリエンテーションでお客様が主体であることを研修しています。また拠点内会議でも再度周知しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から気に入ってる衣服も着られるように洗濯に気をつけています。また自身で好きな理容室を選び通われている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回以上の行事食のメニュー作りからお客様に参加していただき調理、下膳、食器洗い等一緒に行っています。	各ユニット利用者の出来ることを活かし、食事の準備や後片付けに関わる事が出来るように取り組んでいます。食事の楽しみでは季節に合わせて行事食を提供したりお弁当を作りホームの庭でランチを楽しむなどの取り組みも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量は記録し、朝夕の申し送り時に報告してもらい必要に応じて主治医の指示を頂いてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後3回の必ず口腔ケアを実施しております。訪問歯科医よりお客様に適した口腔ケアの指導も受けています。		

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に時系列で記録しています。パターンを把握し排泄の間隔を管理しトイレ誘導を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残していません。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が少ないお客様には好きなものやゼリー等で水分を補っています。咀嚼がしっかりしている方には食物繊維が多く含まれる寒天を提供しています。また排便チェック表を用いて定期的に排便があるように下剤の調節を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表はあるが入浴回数や時間帯についてはなるべくお客様の希望に沿うようにしています。	利用者の体調を考慮し週に2~3回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や各種入浴剤なども使用し、入浴の楽しみにつなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間を特に定めず、お客様主体で動いている。ただし昼夜逆転防止の為、時間で誘導したり安定剤を用いる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師の同行をお願いし、担当ケアマネも交え意見交換をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の生活歴を生かし日々の生活で役割を持っていただいています。また外出支援、行事、誕生日会など工夫し不定期に変化をつけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買い物へ行ったり散歩に行ってます。また週に一度ご家族で外出、外食に行かれる方もいます。	天候や気候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、外出行事で近隣の公園やお花見への外出、また、お盆の時期にお墓参りに出かけたいと要望する利用者に、家族の協力を得て職員がお墓参りに同行し利用者の安心感が得られるように取り組んでいます。	

グループホームガーデンコート前原東(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が小額ですが持っている方がいます。散歩の途中で自販機で自身の好きな飲み物を選んだりされてます。管理の難しいお客様は事務所内金庫や銀行に預けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を職員が押して居室にて通話されてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のようになり過ぎず、家庭的な雰囲気演出できるように工夫してます。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理強いはず、お伺いした上で本人の意思を尊重しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込まれています。整理整頓はご本人様と居室担当の職員が一緒に行ってます。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極力ご本人様の意思を尊重し、起床、就寝時間等一人ひとりのペースに合わせて対応しています。決して無理強いすることなくペースを尊重した支援が日々図られてます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900651		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート前原東 (2階)		
所在地	千葉県船橋市前原東5-42-35		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一笑をモットーに、職員とお客様において良好な関係が築かれています。日常生活では趣味や家事の手伝いとご本人様が出来ることを発揮できるように支援するほか、希望に応じて外出や外食会の実施など様々な企画を設けて日々楽しく生活できるように支援しています。施設のような雰囲気ではなく、家庭の雰囲気を大切にしたい住環境を心掛けています。ご家族様との絆の橋渡しであることを心掛けています。(連絡を密に取り月1回ガーデンコート通信の送付、ブログの更新など)自治会・近隣学校主催の行事にも参加させていただき地域の方との交流も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホーム内で居心地よく、楽しく生活が送れるように毎月行事を実施しており、利用者の楽しみが拡充できるように取り組んでいます。今年度も近隣のファミリーレストランへ外食に出かけたり、ホーム内で流しそうめんを楽しむなど、食事を楽しむ取り組みも定期的に取り入れています。ボランティアの方も積極的に受け入れており、行事で三味線や韓国舞踊、ウクレレのボランティアを受け入れたり、日常的にも傾聴のほか囲碁や将棋のボランティアを受け入れています。毎月行事を実施していることで利用者の楽しみも増え、利用者、職員共に笑顔が多く、明るい雰囲気の中で利用者は生活を送ることができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是、経営理念、心得を念頭におきお客様が家庭的な雰囲気の中で生活出来る環境作りを心掛けている。	会社の社是、経営理念、心得をホーム内に掲示しており、職員全体で共有できるように取り組んでいます。また、企業の社員であることを念頭に、倫理観やプロ意識を持って仕事をしていく大切さについても管理者から職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加、地域での買い物や散歩を通し地域との交流を図っている。	地域や神社で開催されるお祭りへの参加や散歩の途中で近隣の方とあいさつを交わしたり、囲碁や将棋、傾聴ボランティアの受け入れなどを通じて地域の方と交流できるように努めています。近隣とも良好な関係を築き運営を進めています。	近隣の小学校との具体的な交流についても検討しており、今後小学校との交流を通じて、子ども達と交流できる機会が増えていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日課の散歩や運営推進会議等で事業所を認知して頂き理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月開催の行事の報告、利用者様の日常生活の様子、状況等を報告し助言や意見を頂きサービスの向上に活かしている。	会議には地域包括支援センター、在宅介護支援センター、薬局や訪問歯科、家族代表者等の参加を受け2ヶ月に一度定期的を実施しています。会議では、ホームの取り組みや運営状況の報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連絡を密にし、協力関係を継続している。	運営上相談が必要なケースにおいては、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。事業所側からの質問には丁寧に回答を受けることができます。また地域包括支援センターや在宅介護支援センターからの協力も得ることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ研修を行い、身体拘束についての理解を深めている。また日頃よりスタッフ間で情報、意見交換を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向け、高齢者虐待防止や身体拘束廃止研修を通じて職員の理解が深まるように取り組んでいます。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修を行い、虐待事項の確認と日々のケアを再確認し虐待防止に努めている。		

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ研修を行い、制度について学ぶ機会を持ち、実際に制度を利用している方もいらっしゃるのでは必要のあるお客様にも助言出来る体制作りを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者が対応し、十分に説明を行いご家族様にご理解とご納得頂けるまで時間をかけ行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議、面会時等に直接ご意見、ご要望を伺う事が出来ている。その都度、話し合いの場を設け運営に反映させている。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しているほか、毎年の外部評価を通じて家族アンケートを実施し意見や要望等を表出できる機会を設けています。利用者からの意向は日常会話から収集し、日々の支援に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が3ヶ月に一度個人面談を行い、スタッフの意見を聞く場を設けている。	管理者は職員と3ヶ月に一度面談する機会を設け、職員からの意向や要望などを定期的に確認しています。支援や業務に対する意見、要望、提案等については拠点会議やユニット会議時に確認し、日々の支援に活かしていけるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員個々の状況を把握し向上心を持って働ける様個人面談等で確認し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に職員のスキルアップ研修があり計画に沿って実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内系列の他のホームとの連携を図り、研修等で意見交換し合いサービス向上に取り組んでいる。		

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、コミュニケーションを蜜にし信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事、不安に感じている事をしっかり傾聴し必要に応じ時間をかけ良好な関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行い、最も必要な支援は何かを見極め情報提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過度なケアは行わず、その方が有する力を十分に発揮して頂き、アットホームな雰囲気の中で生活を共に過ごして行ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携をしっかり行い、関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも来訪出来る様にしている為、ご友人やご近所の方も来訪されている。お帰りの際にはお声かけさせて頂きまたの来訪をお願いしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の面会の受け入れや以前通っていた美容院を継続して利用できるように取り組むなど、これまでの関係性が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の作業を出来るだけ共同で行う様にしている。また、共有スペースを有効的に活用し皆で過ごせる場を設けている。		

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応出来る体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングを行い、一人一人の思いや意向を把握出来る様努めている。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを職員間でしっかり共有し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、介護記録にて全職員が現状を把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、スタッフと近況報告、意見交換を行い必要に応じ往診医や薬剤師に意見を求め、現状に即した介護計画を作成出来る様努めている。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や業務日誌に記録を残し、職員間での情報共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化等があった場合、ご家族、職員と検討会議を行いその時々ニーズに対応出来る様取り組んでいる。		

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる歌やダンス、ウクレレ演奏を楽しんで頂き、町内会の行事にも出来るだけ参加出来る様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で適切な医療を受けられている。往診時、ご家族様が立ち会って下さる事もある。	提携先の医療機関とは月2回の往診を通じて連携し、利用者が必要な医療を受けられる体制を築いています。提携先医療機関とは常時連絡が取れる体制を築いています。また訪問歯科も受け入れ必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時や緊急時に相談を行い適切な助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリー、個人日誌を用いて日常の様子を伝えている。入院期間が長引いている際は定期的に病院に伺い、病棟看護師から状況確認を行う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、または終末期のあり方についてご家族、主治医との話し合いの場を設け情報を共有し合いチームで支援出来る様に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿った対応が出来る様に会議等で確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、消防署員から防災説明、避難経路の確認、災害時の動き等の確認を行っている。	平成29年7月と平成30年3月に夜間及び日中を想定した避難訓練を行っています。3月の訓練では消防署の立会いを受け実施しています。また、「風水害、震災、災害対応マニュアル」を整備し災害時の対応を明確にしています。	今後に向けては災害が発生した際に利用者の安否をどのような手段を用いて家族に報告していくかについて等もより明確になると良いと考えます。

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある声かけで、明るく優しい口調で話しかける事を心掛けている。	「モラル・コンプライアンス」の研修を法人全体で実施し、利用者への言動や行動等の振り返りにつなげています。またトイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し不適切な対応にならないように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意思を尊重し、出来るだけ自己決定して頂ける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体ではなく、ご利用者様が主体である事を研修や日々の申し送りで伝え実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力を活かし、一緒に調理、盛り付け、片付けを行っている。	各ユニット利用者の出来ることを活かし、食事の準備や後片付けに関わることが出来るように取り組んでいます。食事の楽しみでは季節に合わせて行事食を提供したりお弁当を作りホームの庭でランチを楽しむなどの取り組みも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量は記録に残し一人一人の状態観察を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後一人一人に適した口腔ケアを行っている。必要時は訪問歯科にて口腔内の状態を診て頂いている。		

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄の状況をその都度記録に残し、排泄パターンを把握し、一人一人に応じた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残していません。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターン、排便状況を把握し下剤を使用したり体操や散歩を行い、食事水分量の確認を行いながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意思を尊重し、無理強いする事なく出来るだけご希望に沿える様心掛けています。	利用者の体調を考慮し週に2~3回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や各種入浴剤なども使用し、入浴の楽しみにつなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止の為、安定剤を内服している方もいらっしゃるが特に時間を定める事なくご自身のペースで行って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、薬剤師との連携を図り薬の情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や行事食、誕生日会等を企画し気分転換が図れる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との連絡を密にし、出来るだけご本人の希望に沿える様努めている。お盆、お彼岸時お墓参りに行きたいと仰る方がおりご家族様の了解を得て職員と一緒に墓参り行かれる方もいます。	天候や気候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、外出行事で近隣の公園やお花見への外出、また、お盆の時期にお墓参りに出かけたいと要望する利用者に、家族の協力を得て職員がお墓参りに同行し利用者の安心感が得られるように取り組んでいます。	

グループホームガーデンコート前原東(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で小額管理している方もいらっしゃるが事務所の金庫で保管している方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話で話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の雰囲気ではなく、家庭的な演出を心掛ける居心地よく過ごせる様に努めている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意思を尊重しお好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が快適に過ごせる様に、ご本人の意思を尊重している。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのもをの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者様が安全に生活出来る様工夫されている。		